



Rotary Club of Komatsu City News



ROTARY Club of
KOMATSU CITY

国際ロータリー第2610地区
1998年3月25日創立

ロータリーは機会の扉を開く

2020-2021年度RIテーマ

「ロータリーは機会の扉を開く」

例会場：〒923-0868 石川県小松市日の出町4-93

ホテルビナリオKOMATSUセントレ2階 毎週月曜日 19:00点鐘

事務所：同上 ホテルビナリオKOMATSUセントレ1F TEL 0761-20-2610 FAX 20-2600

E-Mail: rotarian@sirius.ocn.ne.jp Home-Page: <http://www3.ocn.ne.jp/~rotarykc/>

2020年7月27日(月) 小松シティRC第946回例会 当クラブ出席率 67.65% (補正出席率70.59%)

ゲスト卓話「靴紐の実践」(有)北陸鳥類調査研究所 代表取締役

日本オオタカネットワーク副代表 今森 達也 様



私の会社は、ワシやタカ等の猛禽類の調査・研究を行っております。私自身は専門家・有識者として、国交省、環境省や石川県などの行政機関、また北陸電力などの民間企業に対して、開発・事業活動と貴重な鳥類との共存に関するアドバイザーとしても活動しております。私は1989年に就職活動をしていたのですが、1989年といえば昭和の終わりと平成の幕開け、天安門事件の発生、ベルリンの壁の崩壊、冷戦構造の終結宣言など、これから世界が大きく動いていくと予感させるような大転換の年でした。同時に1989年は現在につながる技術の革新・発展を予兆する年でもありました。インターネット技術の確立、コンピュータの高度化、PCが一般企業や一般家庭に少しずつ普及し始めており、これから大変な世の中になるのではと思ったものでした。

当時は機械化等の影響で工場での人員整理が進んだ時代でもあります。私は人との結びつきを大切に考えていましたので、今後ロボットやコンピュータ、IT技術が更なる進展を遂げれば、いずれ会社には人がいない時代が来るのではないかと不安に思っておりました。私は教授推薦で有名メーカーの内定を得る機会を得られましたが、それでは人との結びつきを喪失することに逆に貢献するようで気が進みませんでした。

私が選んだ就職先は車のディーラーでの営業職でした。そして就職早々に気づいたことがありました。車のセールスマンは離職率が高いため、お客様が点検、修理等で来店しても購入した当時の担当セールスマンが既に退職していることが多いのです。そういったお客様は点検・修理を終えるのを待つ間、営業店の誰からも話しかけられずにとて寂しそうに見えたのです。そこで私は車の購入当時のセールスマンが現在は退職しているお客様一人ひとりに、「私が車を販売したわけではないが今後は私が担当させて頂くので宜しく」と挨拶することから仕事を始めました。お客様と営業所との関係をもう一度結び直す作業を始めたのです。コンピュータや機械化で人と人との結びつきが失われる中であって最後まで人と人との心を結んで仕事をしたい、私はこうしたいことがやりたくて社会に出たことを思い出したのです。しかし残念ながらこの志は長くは続きませんでした。車のディーラーには販売目標があり、その達成に追われていつの間にか自分の信条を忘れていたのです。私は入社2年目で既に営業店のトップエース並みの販売台数を達成していました。今でも破られていない販売台数の新記録を達成したこともありましたが、当然こういった状況では、じっくりと心と心を結んで仕事をするといい状態ではなくなります。目標台数をクリアするために完全な効率重視となります。そのときの私はお客様との関係を早く固定したい、早く契約したい、あなたとはこれを決めた、あなたとはこうだ、次々・・・といった仕事の状態でした。

その後1996年に私の亡き師匠が起業した猛禽類の調査会社に転職し、1999年1月には独立して会社を起ち上げました。会社の起ち上げ当初は毎日が追われるような生活でした。あれもこれも全部自分でやらなくてははいけません。当時の生活は日の出とともに現地の調査に赴き、日没とともに帰ってきてデータの整理をし、夜中は行政やコンサルタント会社との仕事をするといった具合でほとんど寝る間もない状態でした。こんな調子で次から次へとやらなくていけないことに追われ余裕がなくなるうちに、家族やスタッフとの人間関係も、自分にとって一番都合のよい関係に固定して、しかも、その関係性は一度決めたらずっとそのままにするようになっていきました。そのときの私は人の話は全然聞いていませんでした。こんなことをずっと繰り返していたのです。今年の3月頃、私の事務所に訪ねて来られた方達がいました。その方達は事務所へ上がるときは玄関で靴紐をほどき、帰るときは靴紐を結んでいきました。そういった光景を5、6回連続で目のあたりにしました。それを見た私はハッとして「何か大事なことを忘れていないのではないか」と思いました。玄関の私の靴を見やると、私の靴紐は何重にも固結びでギュウギュウに結びつけてありました。ちょっとだけ踵を踏み潰せば履くことができ、容易には脱げないように丁度いいポイントを見つけ、それを固定するために何重にも靴紐を縛り付けている状態です。私はこの靴紐の状態が、今の私の人間関係の作り方そのものではないかと気付かされました。この靴紐が今の自分の心

このままではいけないと思い、その日から靴紐をほどいたり結んだりすることを始めました。「靴紐の実践」です。すると様々なことに気づきました。朝と夜では自分の身体の状態が異なることから靴を履くときに丁度良い靴紐の結び目の位置が違うこと、靴紐を結んだり解いたりする際、靴を見ると雨の日には汚れていたり、何処でぶつけたのか傷が付いているときがあること、寒い朝と暖かい昼間では皮の固さが異なることから適切に結べる位置が違うといったことです。毎日毎日履いている靴でも自分の状態と相手の状態によって適切に結べる位置が違う、心地よい結び方が違うのです。当たり前に思われるかもしれませんが、私にとっては大変新鮮な大発見でした。そこで私は更に「靴紐の実践」を深めることにしました。出かける際に靴紐を結ぶときには、これから会う人が良く知った人でも毎日顔を合わせる人でも適切な関係を結ぼうと心に念じて靴紐を結ぶことにしたのです。そして、その日に上手く人間関係が作れたら、帰ってきたときに感謝をしながら靴紐をほどきます。逆にもっと上手くいかなかったら、靴紐をほどくのと一緒に、自分の心のわだかまりもほどいて捨ててしまいます。そして次の日、靴紐を結ぶときには、もう一回良い関係を結び直そうと念じながら結びます。そうすると会った時の挨拶の仕方から変わってきます。毎日顔を会わす人でも心の持ち様が違うわけですから。

この「靴紐の実践」を皆さんもやってみませんか。世の中の多くの人が実践するようになれば、コロナ禍で傷んだ私たちの関係もやわらかく温かく修復できるのではないかと私は考えています。



【会長挨拶】

本日は今森様をゲスト卓話に迎えるということで鳥の話題についてお話ししたいと思えます。以前、ラジオを聞いていますと「日本野鳥の会」会長の上田恵介さんが出演されており、今年は長雨の影響で虫が飛ばないことから、虫を捕食するツバメ等の鳥は苦勞していることやこの時期に外を歩いていると幼鳥の鳴き声が聞こえるが、幼鳥と成鳥では鳴き声が全く異なることから何の鳥だろうかと考えさせられるとのお話をしており印象的でした。

石川県に目を移すと県庁にハヤブサが営巣しているとの話題やスカイパーク翼の近くにオオタカの営巣があるそうで、こちらは今森様が発見されたそうです。

本日の演題は「靴紐の実践」ですが、鳥類の話題や、はたまた、先ほど今森様と河北会員と私で盛り上がったアニメソングの話題も出てくるのかと大変楽しみにしております。



「小松シティRC ニコニコボックス ゲスト卓話御礼・閉会点鐘御礼・その他」

- ・濱本哲成「今森達也様、本日は当クラブで卓話頂き有難うございました。鳥の話！と思っていましたが、それとは別の深い話、面白かったです。結ぶ、タテの糸はあなたヨコの糸はワタシ...今度は是非一緒に深酒しましょう。」
- ・松本賢一「今森様、本日はお忙しい中卓話頂き有難うございました。学の薄い私には、大変勉強になりました。」
- ・鈴木隆史「今森達也様、本日はお忙しい中当クラブにて卓話して下さい有難うございます。大変興味深いお話で、胸が熱くなりました。今後のさらなるご活躍を祈念致します。」
- ・杉本隆「今森様、本日はお忙しい中卓話頂き有難うございました。大変勉強になりました。本日閉会点鐘させて頂きます。」
- ・河北和則「本日はご多忙の中、シティRC卓話にご参加頂き心より感謝致します。いつも今森様には助けて頂き本当に有難うございます。また今後共宜しくお願い致します。次回はアニソンのご参加期待您的しております。」
- ・山崎秀雄「本日はゲスト卓話「靴紐の実践」くつひもが人間の性格を表す、初めて聞きました。朝ヒモ、夕ヒモで体調がわかる、クツの状態もわかる、有難うございました。感謝」

(順不同・敬称略)

【編集】会報広報委員 宮本賀章